

2015 年度入試動向 まとめ

2014 年 11 月 20 日

関 孝平

資料： ベネッセ 2015 年度入試出願指導研究会 (11 月 11 日@ベルサール秋葉原)
駿台予備校 難関大学入試動向研究会 (11 月 18 日@駿台池袋校)

A 全体的な傾向

① 受験人口の減少

- ・現役生が増えている、既卒生の減少
(現役+2.7、既卒-11.6、全体-0.3)
- ・国公立を回避した現役生が早慶の志願者動向に影響を与えている
(慶應は現役大幅増、早稲田はそこまででもない)

② 安全志向、安易志向

-
- ・難関大学を避ける傾向
 - ・これまでにないほど私立の志望者指数が増加
 - ・私大志望者指数 104、国公立 98 (前年度を 100 として)

③ 新課程の開始

- ・センターでの理科を嫌う傾向 → 私大傾向、安全志向に影響

④ 引き続き文減理増、文低理高の傾向 (ただし文減も底打ち感あり)

⑤ 国公立は B 判定を目安に出願指導

私立は C 判定を目安に出願指導 (複数回の受験が可能のため)

B 学部系統別動向

- ① 国際関係、グローバル系の人気上昇
 - ・過去 5 年間で 150%の志望者増
 - ・各大学グローバル系学部の新設
 - 例) 青山・地球社会共生、順天・国際教養 (2016 年は学習院・国際も)
- ② 経済の不人気
 - ・ただし、経営、商学といった実学系は人気傾向もある。
- ③ 不人気の続いていた法学部の人気回復傾向
 - ・首都圏では特に顕著、志望者指数 113
- ④ 工、建築が人気
 - ・震災復興、オリンピックの影響も
- ⑤ 農学部はずっと安定
- ⑥ 薬の人気上昇が落ち着く
- ⑦ 歯は昨年の反動で UP
- ⑧ 駿台全国模試 (4 万人上位者受験) では、文系がのきなみ減少

C 偏差値層別動向

① 安全志向で上位層が減り、下位層の受験者像が目立つ

- ・国公立： 理系上位層のみ UP

文系は上位層～中間層 DOWN

→ 新カリキュラムを嫌い、国公立を避け、私立に逃げている

下位 UP

- ・私立大： 安全志向、安易志向

受験者増加 + 最難関を回避

→ 日東駒専・大東亜帝国の志望者 UP が顕著

D 大学別動向 国公立 (特別表記がない場合は前期試験)

<概況>

- ① 難関国公立 10 大学は弱気思考、特に文系が減っている
 - ・前期も減っているが、後期は特に志望者指数が減っている
- ② 関東主要国公立
 - ・埼玉大、千葉大の減少が目立つ
 - ・東京外国語大は前期も後期も元気 (グローバル志向)
 - ・横浜国立、首都大学東京、横浜市立の前期はやや元気
- ③ 文系： 減少傾向は続く、しかし現役生の文系離れは落ち着く
- ④ 理系は増加傾向
- ⑤ 医学部は志望者が UP 継続

<東京大学>

- ① 偏差値層は今年の方がやや高い傾向
- ② 文科全体上位層が減少 = 既卒生の志望者が少ない傾向
- ③ 理科前期： 全体的に人気 UP、難化、医学部は爆発的

<一橋大学>

- ① 法、経済は志望者減少、それでも難易度は上がるか
- ② 社会： 上位志願者減、センター180点のうち理科100点という影響がどのぐらいあるか
- ③ 経済、商、社会はここ2年、偏差値60代後半の合格率が上昇

<東京工業大学>

- ① 第2類は弱気思考
- ② 第4類は志望者、レベルともに UP、難化予想
- ③ 第6類： 震災、オリンピックの波 → 人気、難化予想
- ④ 第7類： 募集人員変更 -20人の募集減、2016年度はもっと減少する
- ⑤ 合格者のセンター数学、理科の合格者平均得点はそれぞれ91%、93%
(ただしセンターは基準点のみで、合否は個別試験によって決定)
- ⑥ 募集人員の変更

2014年 前期133名、後期20名 → 2015年 前期113名、後期20名、AO20名

<京都大学>

- ① 元気、東大に追いつく勢い

2016 年度入試動向 まとめ

<北海道大学>

- ① 法が志望者指数 117、医は 125

<東北大学>

- ① 教育は昨年の反動で志望者指数 70、農は安定 116

<筑波大学>

- ① 入試変更が多い、志願者の動向に影響
- ② 人間は志望者増（理、国語も選択可能になったため）
- ③ 前人文・文化、社会・国際は志望者減が顕著、特に上位層の減が目立つ
 - ・センター5科目からフルセットへ変更が影響
- ④ 社会国際： 14年度入試より後期廃止 → 秋田国際教養大学との併願が多い
- ⑤ 医（看護）： 14年度 国語必須 → 国語 or 理科の選択
 - ・千葉大・看護と類似した形で対策できる

<埼玉大学>

- ① 全体として元気ない
- ② 経営（国際枠）が人気、留学必須の学部＝グローバル志向
 - ・志望者指数 138、ただし昨年は実質倍率は 1.7
- ③ 教育： 学部再編&募集人員自体を減らしている（480→430）
 - ・志望者指数も減っている（83）、募集減以上に減らしている感も
 - ・すべてのレベル層で志望者減
- ④ 理系： ここ数年実質倍率の低下が見られていた、2015年度の志望者指数は前年並み
- ⑤ 工： 全学科で上位層の志望者数が増
 - ・センターの国語が現代のみで出願できるようになった影響
 - ・2014年度入試では、前後期ともに記述模試偏差値 50 台の合格率低下

<千葉大学>

- ① 試験の変更点が多い
- ② 全体的に DOWN が目立つ
- ③ 法政経： 入試変更 個別重視型へ、
 - 前期は募集定員を増やしたが、志望者指数は回復せず
- ④ 工： 建築人気で指数 111、特に画像科学が増加額は 279 の大人気
 - ・特に上位層の増加が目立つ
 - ・2014年度入試は横浜国立・理工、明治大・理工との併願が目立った
- ⑤ 農、水産は入試変更で英語が追加 → 志望者がかなり減
- ⑥ 医： 個別重視型に移行、志望者指数 83
 - ・2014年 セ 900/個 1000 → 2015 セ 450/個 1000

2016 年度入試動向 まとめ

⑦ 教育： 千葉大・教育と東京学芸大・教育の志望重複が増加

⑧ 園芸： 外国語が追加 → 敬遠されている
併願先は東京農工・農、宇都宮大・農

<電気通信大学>

① 昨年度に引き続き志望者 UP (指数 104、レベル+0.4)

② 個別重視型、さらに上位 50 名は 2 次の結果のみで合格になる
→ 東工大のようなスペシャリスト育成志向、それが人気につながっているのか？

<東京農工大学>

① 全体で志望者数はやや減少

② 工<前期>： センター重視型に移行
・2014 年 セ 900/個 1000 → 2015 セ 900/個 500

③ 農： 志望者数は前年並み、ただし上位層は減

<東京外国語大学>

① とても元気、人気爆発

・グローバル志向、入試科目の変更による受験者層各大大
(個別試験における日本史の追加：314/1662 人)

② 偏差値 70 台付近の上位層における志望者増が目立つ

③ 私立大併願 (2014 年度入試) のトップ 5 は以下の通り
・上智大、外国語、早稲田・国際教養、上智・総合グロ、青山・国政、津田塾・学芸

<首都大東京>

① 健康福祉、珍しく後期日程を追加

② 都市教養・前 A は志望者減 (指数 77)、特に C~B 判定の志望者減が目立つ

<横浜国立大学>

① 経済が DOWN

・ここ 2 カ年センター得点率 70% 台後半以上が目安
・数学、英語ともに記述模試偏差値 60 代後半を確保したい

② 理工： 機械工、材料工で志望者数が増加
併願先は国公立は千葉大・工、私立は明治・理工が多い

<横浜市立大学>

① 国際総合： 前年並み志望者数、上位で志望者数が増加、難化傾向か？

2016 年度入試動向 まとめ

<東京学芸大学>

① 教育学部改変、募集人数変更

- ・2014 年 教育系 730 人 → 2015 年 学校教育系 825 人 (拡充)
- 教養系 335 人 → 教育支援系 185 人 (縮小)

② 2014 年度入試では志望者減： 千葉大教育に流れた

<お茶の水女子大学>

① 文教育（言語文化）： 後期廃止

② 物理系統の入試変更： 個別入試に英語が加わるが、人気 UP

(女子なので理系でも英語がプラスに働いたか)

<東京海洋大学>

① 海洋工： センター入試科目変更

- ・2014 年 物化生地から 1 科目 → 2015 年 物理が必須 +その他 1 科目

② 海洋工： 複数学科において上位層の増加

ここ数年実質倍率が上昇、2015 年度も厳しい予測

③ 2016 年度より英語外部試験のスコア提出が義務化

E 大学×学部系統の動向 <国公立>

① 人文科学： 志望者減

② 法学： トップ層が減、第 2 ゾーンが人気（難関校を避けて、次のゾーンに移っている）

③ 経済： 志望者減、ただし経営、商は除く

④ 国際： 志望者 UP が顕著

⑤ 教育（英語）： ？

⑥ 物理： トップ層が減、第 2 ゾーンが人気

⑦ 薬学： これまでの人気落ち着いた？

⑧ 看護： 理系選択指定パターンが影響、動向が激しい

どのパターンを設定しているかで志望者の増減が影響

- ・基礎 2 科目が人気、専門科目のみが不人気

F 大学別動向 私立

<全体>

- ① 首都圏私立の志願者数は増加
 - ・特に日東駒専、大東亜帝国の増加が目立つ
- ② 志願者増： 慶応、上智、ICU、明治、青山、立教、日本、駒澤、大東亜帝国
國學院、成城、武蔵、明治学院、津田塾、工学院、芝浦工、東京電機、
東京工科、神田外語
- ③ 志願者減： 中央、東洋、専修、学習院、成蹊、東京女子、日本女子、東京理科
順天、文教、獨協、神奈川

<慶応大学>

- ① 全体的に文系を中心に志望者増、理系はやや減傾向
 - ・難関大学会費傾向の中、国公立層が流れてきたか = 現役増が既卒減をカバー
(慶應は国公立層がよく併願する)
- ② 現役が志望者増 + 既卒は志望者減 = 全体の志望者増
- ③ 入試日程を前倒し
 - ・医、経済の 2 学部を除いて、国公立前期試験の前に合格発表が行われる
 - ・慶應を合格し、国公立を受けない受験生が増える (国公立層の取り込み)
- ④ 経済： 上位者そうの増加、難化予測
- ⑤ 商： 募集人員減 (A+B 方式：700→600) にも関わらず、志望者増 (指数 110)
しかも C 判定値以上の志望者数が増加、厳しい入試になることは間違いない
- ④ 総合政策： 志望者増もレベルは下がるか

<早稲田大学>

- ① 全体的に志望者はやや減、全国指数 104 と比較すると明白
 - ・現役は慶應ほど志望者増になっていない、既卒は慶應以上に志望者減
= 既卒減を現役がカバーしきれていない
- ② 基幹理工： 学系別募集となってから 2 年目
学系Ⅱが増加、学系Ⅰ、Ⅲは減少、学系Ⅱが勢いあり、学系Ⅰに迫る勢い
2014 年度入試は偏差値 70 前後で合格率やや低下
- ③ 教育 (英語英文)： 易化か？
- ④ 先進理工： 志望者減が顕著、トップ層が避けている

<上智大学>

- ① とても元気、全学部で志願者大幅増
 - ・TEAP の影響、総合グローバルの勢い、インターネット出願
- ② 通常入試は昨年並みかやや増、ただし一般入試枠が 80% になるので難化は必至

2016 年度入試動向 まとめ

- ③ 総合グローバル： 2014 年度入試は初年度にして早稲田・国際と並ぶ難易度になり上智の外国語・英語の難易度を超す人気ぶり
2015 年度も志望者数大幅増（指数 150、TEAP 利用型含む）
偏差値 66（C 判定値）前後で志望者数が増加
- ④ 理工： 志願者増
・ TEAP の影響 + 入試科目の変更
（理科 2 科目の A 方式廃止 → 理科 1 科目の B 方式のみ）
- ⑤ TEAP 入試は通常入試よりやや易しめ
- ⑥ TEAP の基準点は簡単に越えられる
- ⑦ その他、詳しくは MAX 入試研究 2「上智大学」を参照

<東京理科大学>

- ① 経営： 志願者増、C 判定値 58 以上の志望者数が増加 → 難化予測
・ キャンパス移転の影響（久喜キャンパスが 2 年まで→1 年のみ）
- ② 工： 志願者増、C 判定値 59 以上の志望者数増加 → 難化予測
・ 人気の工 + 募集人数増加（建築、電気工、機械工の全てで 90 名→110 名）
- ③ 薬： 人気に落ち着きが見られる、C 判定値 61 以上の志望者減少

<ICU>

- ① 志願者増（指数 115）
- ② B 判定値 70 以上は減少、C 判定値 67 前後は増加
- ③ 入試変更
・ B 方式： TOEFL、IELTS のスコアを採用（募集人員 10 名）
・ A、B 方式共に新科目「総合教養」の設置
（15 分のミニレクチャー + 論文を読む → 設問 40～45 問）

<明治大学>

- ① 全体はやや志望者増
- ② 文： 募集人数増加されるも志望者数は前年並み（485 名→501 名）
- ③ 経営： 志望者減少
・ 入試変更の影響も（学部一括募集、センター 3 科目方式）
- ④ 総合数理： 昨年に引き続き志望者増、C 判定 57 以上の志望者増加が目立つ

<青山学院大学>

- ① 大学全体の志望者増
・ 全学部方式の地方入試（名古屋、福岡）の導入
- ② 文： 募集人員が減少（140 名→110 名）も、志望者数は前年並み → やや易化か？
- ③ 地球社会共生： 募集 110 名（A30 名、B30 名、全学部 50 名）に対して、志望者数 568 名

C 判定値 60

・ A 方式が人気、英語が得意な生徒は B 方式も検討してみても

- ④ 総合文化政策： 2014 年度は実質倍率 10 倍以上
2015 年度は C 判定値 62 前後の志望者増加 → 引き続き厳しい入試

<立教大学>

- ① 大学全体は志望者増、志望者増の学部が目立つ
② 経営： 志望者数増加（指数 108）、C 判定値 67 以下の増加 → しかし高倍率の入試継続
③ 観光： 志望者数増加（指数 115）、C 判定値 62 以下の増加 → 難易度変わらず？
④ 異文化コ： 減少（指数 96） → 高い難易度変わらず、C 判定値 68
2010 年から立教の中でレベル上昇が顕著（合格者平均値 67.7→69.7）
2015 年度は ICU とのバッティングが解消

<中央大学>

- ① 多くの学部で志望者減少
② 法： 減少傾向にやや歯止め、志望者数は前年度並み
しかし、C 判定値 69 以上の志望者数は減、人気回復はまだ難しい
③ 理工： 志望者数が減

<法政大学>

- ① 大学全体の志望者数は前年並み、T 日程も前年並み（指数 102）
② 社会： 入試変更
・ 2014 年 3 科（英、歴、国 or 数） → 2015 年 2 科（英、国 or 数）
③ GIS： C 判定値 67 以上の志望者数が増加

<学習院大学>

- ① 大学全体は志望者数減
② 法、経済： 志望者数減
入試変更 英語の配点割合が高くなる
→ 英語に自信のある受験生が集まり、合格ラインが上がる可能性
③ センター出願枠なし
④ 2016 年度より国際学部を新設

<國學院大学>

- ① 全体の志願者数増
② 法： 志願者数大幅増化（指数 132）
③ 人間開発： 下降傾向が続いていたが、2015 年はやや持ち直す

2016 年度入試動向 まとめ

<成蹊大学>

- ① S方式の導入、志願者数 416 名／募集人員 80 名 → 志望者数増加
- ② S方式 2 月 2 日に入試が行われる

<武蔵大学>

- ① 志望者前年並み
- ② 経済、全学部方式： 金融、経営で志望者増加、経済は減
- ③ 経済： 2014 年度は隔年減少で高くなるはずだったが、さほど変わらなかった

<明治学院大学>

- ① 全体は増加
 - ・全学部方式、地方入試の増設
 - ・3 コースが新設される心理・教育発達は志望者増

<日本大学>

- ① N方式の導入 → 今年も全体の志望者数が大幅増（指数 127）
 - ・2014 年度は専修が志望者数減の影響も
- ② 法； 増加（指数 123）、ただし下位者層の増加 → C 判定値 57 は平年並み
- ③ 生物資源： 増加、新学科の新設

<東洋大学>

- ① 2015 年度より募集増加するも、全体志望者は減少 → 今年もレベルダウンは必至
- ② 入学定員改定： 全体で 512 名増、社会学部は 5 学科全てで 40 名増（計 200 名）
- ③ 文、法、経営： 2014 年度の合格率 40% のラインが 2～4 ポイントも低下

<駒沢大学>

- ① 大学全体の志望者数増
- ② グローバル・メディア： 志望者数大幅増、特に C 判定 52 以上の増加 → かなり難化
 - ・入試変更： 数学の選択が不可、情報の選択が可能に

<専修大>

- ① 大学全体は志望者数減
- ② 経営： 志望者数減

<大東文化大学>

- ① 大学全体は志願者増、大幅に増加している学部も多くみられる
- ② 教育： 中でも高倍率入試

2016 年度入試動向 まとめ

<東海大学>

- ① 大学全体の志望者数増
- ② 医： このところ実質倍率増、2015 年度も志望者数増で継続

<亜細亜大学>

- ① 大学全体の志望者増
- ② 経済<センター利用>： 志望者増
 - ・英語リスニングの成績を利用を導入

<帝京>

- ① 大学全体の志望者増
- ② 外国語： 志望者数減
 - ・外国語が選択から必須に変更した影響か（こんなのありうるの？）

<国士舘大学>

- ① 大学全体の志望者増
- ② 理工： 志望者大幅増

<工学院大学>

- ① 学部改組が行われる
- ② 志望者増

<芝浦工業大学>

- ① 大学全体の志望者増
- ② 芝浦工大は受かりにくくなったというもっぱらの評判
- ③ 工： 志望者数増
 - ・国公立（千葉大、電気通信大）との併願関係が強まっている
- ④ 50%偏差値増加、2 年間で 6 ポイントも UP、数年前の芝浦工大のイメージは通用しない

<北里大学>

- ① 大学全体の志望者数増
- ② 獣医： 志望者数減

<東京電機大学>

- ① 大学全体の志望者増
 - ・東京千住キャンパス新設を依頼
- ② 工： 志望者増、C 判定値以上の志望者増
 - 2014 年度の 50%合格率は 2 ポイント UP

2016 年度入試動向 まとめ

埼玉大、電気通信大との併願が増えている傾向

<東京都市大学>

- ① 大学全体の志望者数は前年並み
- ② 工： 志望者やや減

<千葉工業大学>

- ① 大学全体の志望者
- ② ここ数年、志願者数、志望者数上昇傾向

G 入試日程

<全体>

- ① TEAP が 2 月 3 日設定
- ② ICU が 2 月 7 日に移動
- ③ 慶應が入試日を前倒し

<系統別>

① 法学

- 2 月 7 日： 上智と ICU、青山・全（ミッション系のバッティング影響あるか）
- 2 月 12 日： 中央が法と国際法（お金を払えば両学部とも受験可能）
- 2 月 14 日： 明治、青山、成蹊・・・法のバッティング

② 経済

- 2 月 7 日； ICU、青山、学習院
- 2 月 8 日： 立教・経済政策が単体に
- 2 月 13 日： 慶應、立教、成蹊 → 立教にとっては慶應とのバッティングは苦しい
受験生にとっては分散傾向は嬉しい？

③ 経営、商学

- 2 月 7 日： 上智、ICU、学習院、青山、法政、明治学院
→ 経営希望者には外せない 1 日

④ 国際

- 全体的に早い時期に入試日が乱立している
- 2 月 4 日： 上智、東京女子、明治学院
- 2 月 6 日： 上智・総合グロ、立教・全
- 2 月 7 日： ICU、青山・全、法政 GIS
- 2 月 8 日： 立教・異文化の、法政
→ ICU と立教異文化のバッティングが解消
ICU と法政 GIS のバッティング
ICU と立教・異文化の併願が多くみられるか

⑤ 物理

- 2 月 8 日： 上智、中央、学習院
- 2 月 12 日： 慶應、東京理科大
→ 上位は慶應を受ける、その他は分散するのか

⑥ 建築・土木・環境

⑦ 薬学

2月1日： 北里、明治薬科

2月3日： 星薬、東邦

⑧ 医学

1次試験はどこもバッティングがない

⑨ 成城大 S 方式が 2 月 2 日に導入され、以下がバッティング → 大きな影響はない？

獨協・外国語&国際教養、國學院・文&法、白百合女子・文

武蔵・人文&経済&社会、日本女子大・人間科学

玉川・文、学習院女子：国際文化、二松学舎・文

H その他

① センター理科

- ・文系は新旧カリキュラムの差は小さい
- ・理系は新旧カリキュラムの差が大きい

② センター出願

- ・早稲田 90%以上、MARCH は 85%以上の得点率が目安か

③ 大学のグローバル化

- ・SGU
- ・留学政策

④ 入試改革

- ・TOEFL、IELTS、TEAP、GTEC-CBT、など
- ・思考力や課題解決力をはかる入試